

唄いつぎたい

唱歌 童謡ものがたり

この曲が流れてくると、お正月のおめでたい気分が盛り上がります。正月は、離れて暮らす家族や親せきが顔を合わせる時でもあります。今年も皆が健康で幸せでありますようにとの祈りを込めて、一緒に歌い、お祝いしましょう。

『二月一日』

作詞：千家尊福

作曲：上 真行

1. 年の始めの 例^{ためし}として

終わりなき世の めでたさを

松竹たてて 門ごとに

祝う今日こそ 楽しけれ

2. 初日のひかり さしいでて

四方^{よも}に輝く 今朝のそら

君がみかげに 比べ^{たぐ}つつ

仰ぎ見るこそ 尊^{たご}けれ



解説

この歌は明治26年文部省の「小学校祝日大祭日歌詞並楽譜」で「君が代」「勅語奉答」などとともに発表されました。「儀式唱歌」と呼ばれています。フジテレビ系「新春かくし芸大会」のテーマ曲として、お茶の間でも定番となりました。出雲大社宮司で東京府知事も歴任した千家尊福が作詞し、東京音楽学校教授の上真行が曲を付けました。

1番は、お正月のおめでたさを表現した祝詞風の歌詞です。2番は、当初「初日のひかり 明らかく 治まる御代の 今朝の空」という歌詞でした。易経「聖人南面して天下を聴き 明に響いて治む」を引用した明治の元号を表し、教育に対する政府の影響がうかがえます。大正への改元とともに今の歌詞に書き換えられました。作曲した上は宮内庁楽師でもあり、悠久で雅な趣が感じられる華やかな旋律となっています。